



『途上国における農業経営の変革』

清水 達也編 アジア経済研究所 2019年3月 241頁 3,700円+税 ISBN978-4-258-04640-9

開発途上国の農業をめぐる、土地の売買・賃貸借形態・受委託や農作業機械化の進展、栽培技術の改良、生産から販売に至る統合など、農業経営の様相が変わってきており、各国政府の農業政策、農産物貿易政策も大きな変化が起きている。旧態依然の家族経営のままではなく、外部から資本・労働力等の経営資源を導入するなど、新しい農業経営を模索する世界各地の動きを、アジアの中国、ベトナム、タイと、ラテンアメリカのメキシコ、ブラジルで起きていることを、それぞれの研究者が事例研究を通じて考察している。

メキシコについては、輸出向け野菜・果実生産企業の挑戦と、経済・政策的環境の変化、NAFTAの仕組みでの輸出、生産現場の状況を谷 洋之上智大学教授が論じている。ブラジルについては中西部における穀物生産者の経営拡大、中国の輸入増加に対応して農業フロンティアの拡大とサプライチェーンの構築によって自律的経営を増加させている姿を、清水達也アジア経済研究所地域研究センター ラテンアメリカ研究グループ長が考察している。これにペルー等ラテンアメリカ農業開発を専門とする清水研究員が、途上国における農業の変化についての序章と、新しい農業経営の姿を総括する終章を執筆している。ラテンアメリカの農業で今起きている大きな変化を知るための、極めて有益な参考文献である。 (桜井 敏浩)



『熱狂と幻滅 —コロンビア和平の深層』

田村 剛 朝日新聞出版 2019年6月 246頁 1,500円+税 ISBN978-4-0225-1618-3

コロンビアで後に正式にFALCと名乗る武装農民等による「コロンビア革命軍」が結成されたのが1964年、内戦状態になったが、1984年のベタンクール政権との間で停戦協定が成立し、FALCは一旦は政党を成立したものの90年には武力闘争再開となった。97年には右派民兵組織AUCが結成され、反政府「4月19日運動(M-19)」や「民族解放軍(FLN)」と政府との間で和平交渉と合法政党結成、破綻が繰り返された。結局政府とFALCとの和平協定締結・停戦は、サントス政権の2016年8月に成立したが、10月の国民投票では和平合意は否決された。しかし、サントスがノーベル平和賞を受賞したこと、一部修正した新たな和平合意を上下院が11月に承認したことから、17年にFALCの武装解除が完了して合法政党へ移行し、停戦合意が成立した。ローマ法王フランシスコの訪問を経て、18年にはFALC候補が大統領選挙出馬を断念、国会議員選挙では大敗した。さらに和平合意の見直しを掲げたドゥケ大統領が就任し、19年1月にはFLNによるテロの後にドゥケ政権はFLNとの和平交渉打ち切りを決定した。

このような紆余曲折は、国民の多くに政府・ゲリラ組織・右派民兵組織そして麻薬組織の三つどもえ、四つどもえの殺人、誘拐、恐喝等の暴力、憎悪の応酬の連鎖の記憶が拭えないからである。「決してFALCを許したって訳ではないが、平和のために賛成した」という苦渋の選択で和平協定に漕ぎ着けたが、「合意一つでそう簡単に許されない」という相克が国民の間に依然根強くある。

著者は2014年から18年の間朝日新聞サンパウロ支局長を務め、コロンビアの密林の中のゲリラ、その戦闘員達へもインタビュー、麻薬事情、和平合意の経過と国民投票、なお癒えぬ多くの被害者の傷を聴取し、サントス大統領へのノーベル平和賞をめぐる賛成・反対派の反応、武装解除とその後の社会復帰の壁を精力的に取材した。このルポルタージュは、コロンビアの和平合意に至る複雑な経緯と、多くの勢力の利害の交叉、複雑な国民間の感情が絡み合っていて、まだ平和の道は半ばであること、定着するのが容易ではないことを明らかにしている。

(桜井 敏浩)



『ハポネス移民物語』

川村 湊 インパクト出版会 2019年1月 231頁 2,300円+税 ISBN978-4-7554-0289-0

日系移民文学の研究を思い立って2010年から8年間、毎年夏休みの1か月間ラテンアメリカに足を運んで資料収集と現地調査、インタビューに努め、「日系移民および韓国系移民による文学の総合的研究」という題目で科学研究助成費も受けて、ブラジルを皮切りにアルゼンチン、ペルー、ウルグアイ、パラグアイ、チリ、ドミニカ共和国、ポリビア、メキシコ、コロンビアを歴訪して纏めた、戦前・戦後の日本移民の他地域との比較も交えて概観したラテンアメリカ日本人移民史。

カリブ海の楽園と言われたドミニカ共和国に杜撰な政府調査によって送り込まれた移民の悲劇、沖縄での米軍基地の拡張の経緯からポリビアに赴き出来たオキナワ村と、日本・ポリビア政府間移民協定により開拓が始まったサンファン村があるポリビア、南米では最も早く移住が始まったが、戦時中は強制収容されるなどの辛酸をなめたペルー、1936年に移住地が出来て戦後いち早く積極的に日本人移民を受け入れたパラグアイで、近年は大豆等大規模機械化農業で成功した日系人を出している姿、小説の美少女主人公に憧れたスペイン語学徒の移住から始まり、内戦で苦勞したコロンビアなどの事情と現地での見聞を紹介し、最後の章で日本人による日本語の文学ながらラテンアメリカ文学と認められる移民作家として、ブラジルの松井太郎とアルゼンチンの増山 朗の二人を、最後の移民物語の書き手と論じている。

沢山の日本人移民に関わる資料に目を通し、現地調査での見聞で纏めているが、移民支援体制の中での国際協力機構 (JICA) と日本貿易振興機構 (JETRO) の混同など、不正確な記述が散見される。

(桜井 敏浩)



『チェ・ゲバラとキューバ革命 -ポスタルメディアで読み解く』

内藤 陽介 えにし書房 2019年2月 694頁 3,900円+税 ISBN978-4-908073-52-6

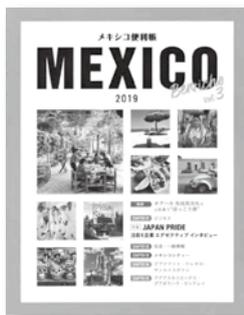
『リオデジャネイロ歴史紀行』(2016年。本誌2017年秋号で紹介)の著書もあり、切手や絵はがき等郵便資料からその国の歴史、文化遺産、国際関係などを解明する「郵便学」を提唱する著者が、キューバ革命とチェ・ゲバラを、ポスタルメディアを手懸かりに読み解こうとした大部な解説書。

没後の周年を機にゲバラの出身国アルゼンチン、かつて彼と戦い処刑したポリビアなどからゲバラの肖像切手が発行されているが、2017年の50周年にアイルランド郵政が出したゲバラ切手は、マルクス主義革命家を肯定的に説明したことから、同国内のみならず米国の亡命キューバ人社会からも抗議がなされた。

切手は発行国の史観、主張、宣伝・プロパガンダを表現するものであり、その図柄のほか、印刷・紙質や消印、送達ルートなど様々な情報をもたらしてくれるので、そこからキューバ革命・革命後の体制やゲバラの肖像から実にいろいろなことが判ってくる。

本書は革命以前のキューバ、革命を志すカストロとゲバラの出会い、革命戦争、革命政権樹立後キューバ国籍を得たゲバラが政府使節団を率いて外国訪問し、工業相としての経済建設に励み、米国との対立激化の中で1964年の国連総会での演説、アフリカ歴訪を経て帰国後カストロへ「別れの手紙」を残してコンゴ、ポリビアに赴きゲリラ戦で倒れるまでの歴史を辿り、最後にゲバラ亡き後の「英雄的ゲリラ」像のイメージの変遷を、ゲバラが足跡を残した世界各地の切手等郵便資料により多岐に紹介しながら述べている。単に郵便切手とゲバラの記述に留まらない、戦後の世界を俯瞰する視点での現代史研究としても一読に値する。

(桜井 敏浩)



『メキシコ便利帳 2019 Vol.3』

吉田 仁 他編 Y's Publishing Co.,Inc. 2018年10月 413頁 3,000円+税
ISBN978-4-8123-0101-2

近年自動車関連産業を中心に日本からの進出企業が急増しているメキシコには、数多くの企業関係者とその家族が駐在している。本書は「渡墨（メキシコ赴任）が決まったら」ビザの申請、家探し、教育事情を知り日本語が通じる各種学校の入学を手配し、「メキシコに到着」して大使館・レオン総領事館への在留届け、銀行口座やクレジットカードの開設、電話・携帯電話やインターネット、ケーブルテレビを設定し、交通手段、自動車の維持関連の事情を知り、保険や緊急時対応、医療や子供用品調達など「いざというときに備える」。「メキシコで生活する」ことが始まると、料理、新聞等の情報、郵便・宅急便、生活用品の調達・買い物、チップ事情。メキシコ人と働き、税務、損害保険、ビジネス会話やメールなどで仕事をするためのやり方、レストランやスポーツ、子どもの遊び場、近郊・国内旅行などから年金制度や結婚・出産時の手続きなどの情報が盛り込まれている。最後に「日本へ帰国する」ことが決まると帰国後の入試等の相談窓口、引っ越しの準備に至るまで、各地での具体的に説明している。メキシコ各地の事情、祝日等イベントカレンダー、政治・経済・日墨関係の基本的な資料も付いており、懇切に赴任者の助けになる情報を満載して極めて有用な情報源である。〔桜井 敏浩〕

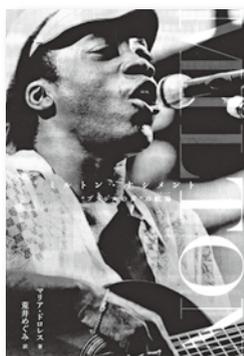


『環流する魂 マブイ 世界のウチナーンチュ 120年の物語』

三山 喬 岩波書店 2019年4月 240頁 2,200円+税 ISBN978-4-00-024535-7

ラテンアメリカへの日本人移民で最も多いのがオキナワ出身者（ウチナーンチュ）で、5年に一度沖縄で開催される「世界のウチナーンチュ大会」の2016年10月の第6回大会へは、28か国からの末裔7,300人が参加し、「沖縄魂（マブイ）」を共感した。朝日新聞記者を経て2000～07年にはペルーを拠点に南米各地の日系社会も取材した著者が、この大会に遭遇したことを契機に沖縄移民史を調べ、月刊『世界』に連載したルポに加筆修正を加えたもの。

1899年に国内最後発でハワイ移民が始まり、メキシコ、キューバ、ペルーとアンデスを越えてボリビアへ転出した者、敗戦後の情報不足から勝ち組・負け組の抗争に巻き込まれたブラジル移住者等の家族史、そして戦後米国へ国際結婚で渡った花嫁達や戦前のフィリピン移民、沖縄の基地拡大に土地を追われた海外移住の背景などにも目を配り、複層的な沖縄移住史の一端を紹介している。〔桜井 敏浩〕



『ミルトン・ナシメント - “ブラジルの声” の航海 (トラヴェシア)』

マリア・ドロレス 荒井めぐみ訳 DU BOOKS刊 ディスクユニオン発売 2019年5月
415頁 3,200円 ISBN978-4-86647-094-8

ブラジルを代表するシンガーソングライターと言われるミルトン・ナシメントについて、同じ街で育ったジャーナリストの著者があらゆる新聞、雑誌等の資料とすべてのアルバムを聴き、延べ66人とインタビューして纏めた伝記。1942年に生まれ、ピトゥーカと呼ばれた幼少期から、兵役でタイプライターを学びしばらくそれで生計を立て、音楽に目覚め街角クラブに参加し、次第に一流ミュージシャンたちとの演奏やレコーディングの機会を得てプロの音楽家になる。しかし、闘病生活や白人夫婦の養子として育ったがアフリカ系の出自などからのメディアの誹謗中傷に苦しみ、愛する家族との別離、人生の苦悩もあった。しかし類い希な美声により多くの人々を魅了して活躍の場を拡げ、人気を博するようになっていったが、その最盛期の期間は政情不安に揺れ1964年に軍事クーデタが勃発して実に1985年の民政移管まで続いた軍事政権下の重苦しい時期でもあった。

本書は2006年までを扱っているが、彼の半生とともにその背後にあるブラジル社会の貧困、差別や社会情勢についても書き込んでいて、単にあるミュージシャンを讃えてその姿を追った評伝に留まっていない。〔桜井 敏浩〕

「ラテンアメリカから世界を見る」 協会主催の講演会・セミナーに積極的にご参加ください

ラテンアメリカ協会では、毎月、講演会・セミナーなどのイベントを開催し、ラテンアメリカ政治・経済・文化の最新情報の提供と日本とラテンアメリカの相互理解の向上に努めております。新規イベントは都度、協会ホームページの「講演会・セミナーのご案内」および「イベント・カレンダー」に掲載するとともに、会員向けのメールマガジン（新着情報）でお知らせしております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

< 最近のイベント >（詳細は協会ホームページのイベント欄をご覧ください。）

2019年

4月5日 米州開発銀行 (IDB) 地域代表理事歓迎レセプション



IDB 地域代表理事

4月26日 講演会「エルサルバドル次期大統領による政治外交政策、経済政策に伴うビジネス可能性について」樋口和喜駐エルサルバドル大使



樋口和喜駐エルサルバドル大使

5月13日 ラウンドテーブル「南米における最近の政治動向：米トランプ政権下で南米はどうなるか？」カルロス・オミナミ元チリ上院議員



オミナミ元チリ上院議員

6月7日 ラテンアメリカ関連団体連絡会議

6月13日 ラウンドテーブル「日本、中国とラテンアメリカ」バーバラ・スターリングス米国ブラウン大学教授



スターリングス米国ブラウン大学教授

6月14日 定時会員総会

6月19日 講演会「ラテンアメリカでの ICT 事業：日本の官民の取り組み」西野寿律総務省国際戦略局企画官
戸上崇（博士（学術））IoT & AI 技術本部 IoT 技術戦略統括部 e-kakashi 推進課課長



西野総務省国際戦略局企画官・戸上ソフトバンク IoT & AI 技術本部課長

ラテンアメリカ・カリブ研究所

本年4月以降、以下の5本の研究所レポートを協会ホームページにて発信しました。桜井悌司研究員の論考はいずれも日本とラテンアメリカ地域とのビジネスを念頭においたもので、1点は、「国際食品・飲料見本市（FOODEX）への出展に見る」とのサブタイトルをつけた「ラテンアメリカ諸国の食品・飲料の対日輸出活動」、もう1点は「何故チリワインは対日輸出に成功したのか」と、そのスペイン語版1点です。スペイン語版については、日本マーケット参入のさまざまなヒントが盛り込まれていますので、日頃お付き合いになっているラテンアメリカの方々、特に貿易パートナーの方々にご紹介いただければ有益と思われると思います。

桑山幹夫研究員の論考としては、「再選を狙うトランプ米大統領の強硬路線 — 翻弄されるベネズエラをはじめとするラテンアメリカ諸国」の上下を掲載しました。

さらに、研究所編で作成した「主要な米国シンクタンク」も、米国の対ラテンアメリカ・カリブ地域の動静を探る手掛かりとして有益な情報収集ツールになりえます。

当研究所では、活動の一環として「大来記念政策フォーラム」と銘打った産官学による内部研究会(年4回)も実施、内容の充実を図っています。ラテンアメリカ・カリブ研究所の概要および出版資料、研究員募集については、協会ホームページ「研究所」をご覧ください。

『ラテンアメリカ時報』 寄稿募集のお知らせ

『ラテンアメリカ時事解説』は最新の各国・地域の政経・社会情勢の解説、「33か国リレー通信」は現地在住もしくは至近の帰国者による現地報告、「ラテンアメリカ都市物語」はその都市の歴史、現在の姿を生活ぶりやその土地独特の気質、スタイル、行事や縁のある人物の関わり等々を執筆者の視点・切り口で語る都市考です。会員からのご寄稿をお待ちしています。

応募：事前にテーマと仮題をお申し越し頂いた段階で審議し、ご相談の上「執筆要領」をお送りします。

字数：3,000字～最大4,000字＋外数として写真・図表計4点まで。

締切：会報編集企画委員会に諮るので、『ラテンアメリカ時報』発行（4、7、10、1月）の3か月以上前までにお申し越し下さい。

送付先：メールにてご氏名、ご所属・タイトル等の寄稿者情報を付して、『ラテンアメリカ時報』編集部 kihou@latin-america.jp へ。

謝礼等：『ラテンアメリカ時報』で採りあげた稿は、掲載誌発行と同時に協会 Web サイトの会員ページに掲載します。原稿料は原則としてお払い出来ません。

広告掲載のお願い

ラテンアメリカ協会では本誌に広告を掲載する広告主の募集をしています。『ラテンアメリカ時報』は年4回発行され、ラテンアメリカ諸国の最新情勢分析や政経文化トピックを掲載、内外の皆様から国内随一のラテンアメリカの専門誌として高い評価を得ております。この数年、ラテンアメリカへの関心の高まりを背景に発行部数は着実に増加しています。この『ラテンアメリカ時報』を貴社の商品・サービスの広告媒体の一つとしてご利用いただけると存じます。広告掲載料金は下記の通りです。是非掲載のご検討をお願いいたします。

広告掲載料 A4 1 ページ	裏表紙カラー	120,000 円 / 年 4 回
表紙裏及び裏表紙裏	カラー	100,000 円 / 年 4 回
同	モノクロ	60,000 円 / 年 4 回
本紙 1/2 ページ	モノクロ	40,000 円 / 年 4 回

詳細はラテンアメリカ協会事務局にお問い合わせください。

『ラテンアメリカ時報』次号予告

次号 2019 年秋号(2019 年 10 月 25 日発行予定)は、6 月 28、29 日の両日、大阪で開催された「特集 G20 大阪サミットとラテンアメリカ」です。グローバリズムとアンチグローバリズム、貿易保護政策拡大などの狭間で揺れ動く世界情勢の中で、ラテンアメリカから参加したブラジル、アルゼンチン、メキシコ、チリの 4 か国に焦点を当てながら、これからの地域と日本との関係を展望します。

「駐日大使インタビュー」は、駐日コロンビア大使に最新の情勢と日本との関係について伺います。

「ラテンアメリカ時事解説」では、日本の対ラテンアメリカ外交構想についての試論、漁業をめぐるラテンアメリカとの関係、財政改革を試行するコスタリカの実状、ペルー、ボリビアやブラジル・アマゾンへの日本人移住周年行事を契機とした日系社会との連携強化への取り組み、

アルゼンチン、メキシコ、キューバで昨年行われた日系社会の実相調査結果の分析、依然猛威をふるう熱帯病の実態と予防策など、ラテンアメリカでいま起きている現象を解析します。

現地からの報告「33か国リレー通信」は、現地在住者からの興味深いレポートを掲載、「ラテンアメリカ随想」もラテンアメリカに通暁した識者によるエッセイ風の読み物で、今回は山田 彰駐ブラジル大使です。「ラテンアメリカ都市物語」は筆者の視点での都市の姿の紹介で、初めて中米からグアテマラ市を取り上げます。

「ラテンアメリカ参考図書案内」は様々なジャンルの近刊書を紹介する、協会 Web サイトとともにご覧になれるわが国随一の有用な図書情報データベースです。



使命は、迅速に 正確に
スペイン語圏の言葉と情報を伝えること

●情報配信サービス

中南米経済速報

CRONICA (クロニカ)

●語学研修

●通訳・翻訳

スペイン語

ポルトガル語

有限会社イスパニカ

〒107-0052

東京都港区赤坂 2-2-19

アドレスビル

Tel. 03-5544-8335

Fax. 03-5544-8336

Email: hola@hispanica.org

http://www.hispanica.org/



ラテンアメリカ協会の活動と入会のご案内

○『ラテンアメリカ時報』の発行（年4回発行）

ラテンアメリカをめぐる最新の話題と課題をいち早く捉え、分析することで、日本におけるラテンアメリカに関する最も充実した定期刊行物。

○ウェブサイトでの情報提供

ホームページは、わが国随一のラテンアメリカに関する総合サイトとして、各国概況、ニュース、記事、イベント情報、新刊案内、リンクなどから成る最も充実したトップサイト。

会員専用ページでは最新の評論（マイアミ・ヘラルドの「オープンハイマー・レポート」などを毎週更新）、関連ニュース速報、『ラテンアメリカ時報』既掲載記事ほかダウンロード可能。さらに充実中。

○講演会・ワークショップの開催

国内、ラテンアメリカ諸国の関係者を招き、講演会、セミナー、ワークショップを開催するとともに、各種調査、研究活動を行っています。

会員の特典

- 『ラテンアメリカ時報』の無料配布
- 協会サイト全ページへのフリー・アクセスとダウンロード
- 協会主催・共催セミナー、シンポジウムへの優先ご案内
- メールでのラテンアメリカ・ニュースレターの配信

入会方法

協会サイトからお申し込み頂くか、事務局へメール info@latin-america.jp もしくは 03-3591-3831(電話) / 03-6205-4262(Fax)へご連絡下さい。
※法人会員は同一ドメイン名の複数の方が、サイトへフリーアクセスできます。
※在外会員への会報は、サイトでの閲覧となります。

法人会員	70,000円(1口以上)
個人会員	8,000円(1口以上)
在外会員	4,000円(1口以上)
国別団体会員	10,000円(1口以上)
賛助会員	
駐日大使館等	10,000円(1口以上)
学生	5,000円

(注) すべて4月～翌年3月までの間の一口年額。「駐日大使館等」には、総領事館、国際機関とこれに準ずる駐日代表部等を含む。



あたたかい空へ。
あたらしい空へ。

国内線のお問合せ

☎ 0570-029-222 (全国一律料金)

国際線のお問合せ

☎ 0570-029-333 (全国一律料金)

www.ana.co.jp

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

『ラテンアメリカ時報』 通巻 1427 号 2019 年夏号

2019 年 7 月 25 日発行定価 1,250 円

年 4 回 (1,4,7,10 月) 発行

発行所 一般社団法人 ラテンアメリカ協会

〒 100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 1 階 120A

Tel.: 03-3591-3831 Fax: 03-6205-4262

E Mail: info@latin-america.jp

URL: <http://www.latin-america.jp/>

フェイスブック: <https://www.facebook.com/>

一般社団法人ラテンアメリカ協会 -601922436541582/

発行人 佐々木 幹夫

編集人 桜井 敏浩

印刷所 (株) アム・プロモーション